第17弾

ホンダラケ緊急討論会
幼なじみは恋愛対象になりうるか否か

M「皆さんこんにちは。ホンダラケ禁断の女子トーク、今回は幼なじみとの恋愛をテーマにお送りいたします。司会はわたくし、親が転勤族であるが故に幼なじみは夢の存在。そんな存在との恋なんて漫画の世界と信じて疑わないMでございます。早速ですがお二人には異性の幼なじみはいらっしゃるのでしょうか？」
F「いますよ！」
A「私も・・・いますね」
M「なんと！するとアレですか、漫画みたいに本当に下の名前を呼び捨てで呼び合っちゃたりするんですかっ？」
F＆A「ええ・・・まぁ」
M「小さい頃はお風呂に一緒に入ってたくらいの仲？そんで大人になって偶然見たハダカの胸にドキドキ♪っていう展開よねっ？」
F「Mさん、それ某漫画などの展開ですよね？お風呂なんか入ってませんから！」
M「ええっ！じゃあ屋根をつたってお互いの部屋を行き来したりは？」
A「それはお互いの家がお隣であることが前提では・・・」
F「それに屋根じゃなくて普通ベランダでしょっ！危ないですから！」
M「・・・そうなの？現実ってつまんないわね」
F「幼なじみ設定にヘンな夢を見すぎです！」
M「じゃあいよいよ本題に入りますが！ずばりその幼なじみに恋愛感情は？」
F＆A「まったくありません（即答）」
M「なんでよっ？幼なじみの法則ってものがあるでしょうがっっ」
A「なんですか？法則って？」
M「幼なじみは思春期になるとカッコよくもしくは可愛くなって恋に落ちる法則」
F「それは漫画限定です！そんな都合よくカッコよくなってたまるか」
M「Aさんはどうなの？その幼なじみとは？」
A「うーん・・・申し訳ないんですけど何も・・・」
M「でもさでもさ、相手の子はひそかにAさんが好きだったかもよー♪」
A「幼なじみとはいえ、中学で会わなくなりましたのでそれもどうだか」
M「Fちゃんは？実は告白されたりとかっ？」
F「Mさん・・・恋愛に持って行きたくて必死ですね。でも残念ながら、その幼なじみは結婚してしまいましたので。・・・これが現実なんですよ!!」
M「なんてこと！振られちゃったのね？それで結婚式に真っ白いドレスで乱入しちゃったり？」
F「それは小説！振られてないし！現実！頼むから現実見て!!」
A「はい、時間となりました。それではまたお会いしましょう～」
←ブログも更新中！　http://sanda-city-lib-ya.sblo.jp/

Volume.23
YA通信

ホンダラケ

H29.12.01.

今月は担当者が一つずつ棚を受け持ちます。
テーマはなんと「恋愛」。さあ、あなたはどの担当者の棚が好み？

年末年始、恋をしろ。

中学生はコーヒー牛乳でテンション上がる

ワクサカソウヘイ：作　情報センター出版局　2009年刊　Eワク

今月の展示は恋愛特集ですが、ここでご紹介するのは恋愛小説ではありません。これはとあるコント作家と中学生たちとの爆笑の日々を描いたエッセイなのです。

ナンバープレートを読もうとして車にはねられる活字中毒のシングウ、とにかく体が弱いモッチャン、山に入れば15分で遭難するアホのハルコ＆ナミコ姉妹など、個性の強すぎる中学生たちが、成長するにつれ、異性に興味を持ちだしたり、本気で人を好きになったり…『恋愛』って何？と、さんざん笑った後にしみじみ考えた一冊です。

ホンダラケとは

本誌は、読者の身も心も「本だらけ」にしてやろうという心意気から生まれた中高生向け小冊子です。本誌に登場する本は全て三田市立図書館本館のＹＡ（ヤングアダルト）コーナーでご覧いただけます。
２か月に１度、年６回発行予定です。
ホンダラケは皆様の投稿をお待ちしております。ＹＡコーナーに用紙・ポストがございますので、おすすめ本や本誌の感想・要望などお寄せ下さい。

青春読書記

～三田学園図書委員会より愛をこめて～

楽隊のうさぎ

中沢けい：著　２０００年刊　新潮社　F/ナカ

センボク
（高校１年生）
最近の趣味は寺や神社に行くこと。御朱印集めが趣味。ハマっている作家は森見登美彦・森博嗣の森コンビ。森見先生の独特な世界観と森博嗣の話の構成が好きです。

今回紹介する本は「楽隊のうさぎ」です。私がこの本に出会ったきっかけは、教室に置いてある本棚のなかでたまたま目に留まったからです。主人公の中学生はある日、上級生に誘われ吹奏楽部に入部します。この本では主人公の視点から、先輩や同級生、親子の関係など自分の学校生活のなかで共感できる部分が多くありました。一度は読んでみてほしい青春ストーリーです。

リサイクル予備軍 ～なぜ君は借りてもらえないのか～

恋におちた人魚

アリス・ホフマン　野口百合子訳　アーティストハウス　2002 年刊

詩集のような装丁で美しい本なのですが、海外のぶ厚いファンタジー小説たちに囲まれて存在感を失っていそうですね。たしかに短いお話ですが、誰もがいちどは経験したことがあるような、不思議な懐かしさを感じます。ヘイリーとクレアは、家が隣同士で、大の仲良し。でも、２人には別れが待っています。８月の終わりに、クレアが遠くに引っ越すことになっているのです。そのうえ、いつも遊んでいたビーチクラブも閉鎖されることに。そんな時、少女たちは激しい嵐によりプールに打ち上げられた人魚、アクアマリンを見つけます。売店で働く美少年に恋をしてしまったというのです。人魚が、陸では生きていけないというのはお約束。アクアマリンを海へ返すために、２人が考えた計画とは？

933/ホフ

ホンダラケポストの投稿にお答えするコーナー ⑮

皆さん！ホンダラケポストへの投稿いつもありがとうございます！ブログで時々紹介していますが、まだまだあるのでここでも紹介してしまおう！というコーナーです。

PN：T.H さん

オススメの本：「漫画家たちの戦争シリーズ」

理由：読んだことのないものを読むと戦争の怖さを一気に感じます。

作：倉橋　燿子
絵：久織　ちまき
講談社, 2008

このシリーズはホンダラケ 19 号の新着コーナーで紹介しましたっけね。漫画で描かれた戦争の情景は全て実際のことです。読んでみて戦争について感じてもらえたみたいでうれしいです。

ところでこんな↓投稿が。

PN：なし

「主人公の名前が『ぱせり』で青い鳥文庫から出た小説のシリーズタイトルが思い出せません。また読みたいので YA 本の探偵社を作って本のタイトルを突き止めてほしい」

F「これ、倉橋燿子さんの『パセリ伝説』じゃないですか？」

A「『パセリ』で検索したら出ましたね・・・終了？」

すみません、探偵社を作るまでもなく終わってしまいました。これで合ってるかな？投稿紹介はブログの方でも不定期にやってますのでご覧くださいませね。

YA世代のために血を吐く思いで名作を紹介するコーナー

『虫めづる姫君 堤中納言物語』 作者未詳

蜂飼耳：訳　光文社　2015 年

「だれがいつまでも生き長らえて、あれは悪い、これは善いなんて、判断できるっていうのよ」

この話を読むたびに、私はタイムマシンの存在を本気で信じたくなります。平安時代に書かれた作品だというのに、主人公の姫は顔を隠さず、お歯黒もせず、眉も抜かずにそのまま。あまりにイマ（平成）っぽいその姫は「世間からなんて言われようと気にしないわ」とルンルン♪しかしそんな彼女にも恋の予感が…？

この「堤中納言物語」、ハイセンスな短編がいくつも収録されているのですが、どれもいいところで切れています。続きを妄想するしかないこのもどかしさに、なぜか妙～にハマってしまう、不思議な古典なんです…。

913. 3/ハチ